

難題山積の中、始動した菅政権

毎日新聞社専門編集委員 与良正男

- *病气辞任への同情
- *本質は新自由主義者
- *乏しい外交経験
- *難しい対中の舵取り
- *携帯値下げの意味
- *学術会議問題の不明
- *横行する事実の歪曲
- *反知性が蔓延
- *懸念される権力志向
- *政治メディアの問題点



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

本日は、菅新政権が誕生して最初の政治関係の講演ということで、初めてでございますが、毎日新聞の与良さんにおいでいただきました。

1957年のお生まれで、名古屋大学卒業後、毎日新聞に入られ、主に政治関係の取材をされてこられました。

今日は、最近話題の学術会議の問題も含めて、今置かれている政権のいろんな問題についてお話をいただけるということでございます。

それでは与良さん、よろしくお願いいたします。（拍手）

病气辞任への同情

与良 皆さんこんにちは。紹介していただき

ました与良でございます。

本日は、歴史のあるこの講演会にお招きいただいて、これはお世辞でも何でもなく、石橋湛山ファンの私としても非常に光栄に思っております。

私自身も、このご時世なものですから、いわゆる講演をする機会には本当にこしばらくほとんどありませんでした。リモートでやったこともありませけれども、こういう形でこんなにくさんの皆さんの前で話すのも久しぶりでございます。

さらに言うと、菅政権ができて間もなく1カ月になりますけれども、菅内閣が誕生してからこういう形で、まとまったお話をきちんとするのは初めてです。話し始めたらしまらないぐら